



家畜保健衛生所だより

R7.2.21

ワクチン接種で牛の異常産の発生を予防しましょう！

牛に流死産、体形異常、虚弱子牛の産出等の異常産を引き起こすアルボウイルスは、吸血昆虫(主にヌカカ、カ)が媒介して集団発生した場合、経済的損失が大きい疾病です。

ヌカカ(成虫)は国内に常在化せず、初夏に発生する季節風によって侵入します。吸血昆虫が国内に侵入する前(初夏前)に母牛へのワクチン接種を行い、異常産の発生予防に努めましょう。

◆アルボウイルス感染症 (近年の発生状況)

アカバネ病		アイノウイルス感染症	チュウザン病	イバラキ病 (EHDV2)	牛流行熱
症 状	流死産、体形異常、水無脳症 生後感染例は起立不能や神経症状	流死産、体形異常、 水無脳症	先天異常子牛 (神経症状・運動障害)	嚙下障害、 泡沫性流涎	高熱、起立不能、 泌乳停止
<u>胎子感染型</u> 西日本地域その他、北海道、東北、北陸、関東の一部での発生あり ・熊本(2020) ・北海道(2023)		・西日本のみ ・発生件数は兵庫、岡山、福岡が多い。 ・沖縄(2019)	・熊本(2024) ・ディアギュラウイルス感染症も同様の症状(九州で疑似事例発生)	・鹿児島(2012)以降発生はないが、近縁の流行性出血病ウイルス(EHDV6, 7)が九州で発生。兵庫で EHDV6 発生(2015)	・沖縄(2019) ・鹿児島(2015)
<u>生後感染型</u> ・福岡、宮崎、鹿児島(2013) ・北海道(2023)					
★ピートンウイルス感染症 (アカバネやアイノウイルスと同じウイルス属に所属) ・愛媛、大分(2020)、岡山(2016~2017)、沖縄、九州、中国地方で報告あり ◇特徴として、体形異常を伴う死産や新生子牛(生存)、脊柱や関節の弯曲、内水頭症、小脳低形成。11~4月に発生。黒毛和種に多い。					
ワクチン	<input type="checkbox"/> 牛異常産3種混合(アカバネ+チュウザン+アイノウイルス) <input type="checkbox"/> 牛異常産4種混合(上記 + ピートンウイルス)			<input type="checkbox"/> 牛流行熱・イバラキ病混合	



◆予防法: 毎年、吸血昆虫が活発化する前(春~初夏前)にワクチン接種による予防が効果的です。初回は4週間間隔で2回接種し、翌年から年1回接種します。併せて、吸血昆虫対策(虫の発生場所を減らす、トラップ、薬剤等)を行いましょう。

◎異常産が発生した際は、ウイルス感染の有無をはじめとした原因究明のための検査を実施しますので、家畜に異常がみられた場合は、すぐに下記までご連絡ください。

中予家畜保健衛生所

TEL 089-990-1333

携帯 090-6282-6129(休日)